



HONJO WASEDA RESEARCH PARK FOUNDATION
財団法人 本庄国際リサーチパーク研究推進機構

Research Park Clips 2005

映画の街 本庄市

未来の大監督 輩出めざす

早大大学院 市民と協力し育成



(早大が「未来の大監督」の撮影現場)

埼玉県本庄市を舞台にした短編映画が誕生した。早稲田大学の本庄キャンパスにある大学院国際情報通信研究科に在籍する学生がメガホンを振り、エキストラ、撮影カメラ助手らには市民ボランティアが参加した。情報通信研究科は映画監督ら映像クリエイターの育成をもちあわせたことで実現した。国内でも珍しい学科。地域と大学が力を合わせた「映画の街」づくりが動き始めた。

多岐学生として受け入れ始めたのは今年から。ひなりの帯はその一期生の第一作でもある。今年十一月の本庄情報通信研究科国際センター利用種別奨励会(NICT)の研究発表会でお披露目。同市などが主催する彰の国本庄映画フィルムコミッションでも上映、DVDの販売予定もある。

情報通信研究科で監督を志す学生は、日本映画監督協会理事を務める安藤雅弘教授の研究室で勉強している。学生は二十人程度。藤田正彦氏も特別教授を務務し、阿氏が監督した日本初の全編デジタル短編映画「スパイ

・ソルゲ」に使われた。実際の設備も配備。作品の制作費用は早大、本庄国際センター、パーク研究所、NICTが拠出してている。

昨年、研究室に在籍する片岡伸氏が撮った短編「かめ」も制作費を助けては、本庄で撮った大画面が生まれるのを楽しみ出している。」と語る。

電気自動車 本庄で公開走行実験

早大など 駅ーキャンパス往復

早稲田大学の大型トラック本庄キャンパスと本庄イクロバス、欧州で研究教授らは二十四日、特殊早稲田駅の四、時刻表を復して性格を確かめた。電気自動車の走行実験を公開した。埼玉県にある本庄は、十一人乗りのマ

バスに比べて、二酸化炭素(CO₂)の排出量が三分の一で済むという。本庄キャンパス内のバスステーションに設置した充電装置で三十分ほど充電すると二十、分ほどの走行ができる。実験ではキャンパスと駅を往復できることを確かめた。

早大生と児童が魚類調査



小山川で魚類調査をする早稲田大学情報研究科学生と本庄市立藤田小学校の5年生。本庄市撮影

「わい、三津前から定期的に水が大きいのがいるぞ。本でも総合的な学習の時、魚類は得意、捕った魚は写真やスケッチで記録して、元の川に放すよ。」

「研究家の青木先生、早稲田大学は環境的な調査の基本協定を結んだ、今回の調査は協定の一環でもある。小学生としては、うたいたいと思っていた。」

(行前川撮影)

「やってみるのが大事」早大生が稲刈り体験

永田研究室 農業実習の一環で

早稲田大学の大学院研究家の学生らが二十八日、本市北郷の上郷新幹線本庄原稲刈り場で稲刈りを体験した。

稲刈りをしたのは、永田研究室の大学院生。永田教授は、今年四月に本庄キャンパスに開設した早稲田大学大学院工学研究科の増田・エネルギー専攻を指揮し、農業体験は、研究が促進される環境教育のためのコンテンツ開発、産学連携の構築に資する技術開発の推進を主眼として行っている。

同市東部の農業試験場正作さんと農地を提供してもらい、六月二十五日の田植えからスタート。稲刈りの当日は、研究室の学生二十四人が参加。学生たちはカマで稲を刈り、束ねはんで分けを行った。またコンバインでの作業も交代で体験。試験場人が稲の束の分けを指導する様子も写した。

本庄

稲刈り体験は小学生以来、永田教授は「米の収穫と食の体験を兼ねたい」と思っていた。学生たちは農業の人が通って肌で感じてもらうことを目指した。用意した農機、トン代、参加した大学院生の長谷川功さんらは「実際にやってみるのが大事」といった。



刈り取った稲をはんで分けする早大生一本庄市北郷

財団法人本庄園遊りパーク研究推進機構は、埼玉県本庄市にある早稲田大学キャンパス内で「バランスステイック健康体操」の体験会を開いた。写真：平均台運動を最新のスポーツ科学で分析し、手軽に行えるようにした体験で、早大の関係機関と本庄市にある企業が共同で研究開発した。バランス能力を向上

平均台運動で健康保つ

本庄の早大校舎で体験会

させる効果があるとい

早大本庄高等学院の田辺教授が開発、早稲田エルダーヘルス研究所が研究に協力した。バランスステイックとは厚さ二センチ、長さ六十八センチのスポンジでできた平均台。高橋康幸（本庄市、高橋組八社長）が開発した。通常の平均台よりも高さが高く、落下の危険がない。幅は四センチから十二センチまで五種類ある。体験会には早大の留学生などを含め、四十人ほどが参加。農業に合わせ、バランスステイックの上で運動を繰り返したり、歩行運動やダンスを繰り返したり、講師役を務めた田辺氏は「学校や体験教室、家庭での健康体操として、幅広く使ってもらえれば」と期待している。

本庄高等学院の教諭など開発

まちづくり・環境教育

まちづくりや産業振興のほか、人材育成、文化の育成・発信など六項目で協定を結んだ。本庄市は助役を委員長とする庁内組織（本庄市・早稲田大学産学連携委員会）を立ち上げ、早大と定期的に協議し、早大と定期的に協議を促す。



協定書に調印した本庄市市長と早稲田大学総長

本庄市、早大と包括協定

埼玉県本庄市は十一日、早稲田大学とまちづくりや産業振興などで連携する基本協定を結んだ。県内自治体が早大と包括協定を結ぶのは川口市に次いで二例目。本庄市は今年中に庁内組織「まちづくりや産業振興」を立ち上げ、今年度内の着手を目指してまちづくりや環境教育などの連携事業の検討に入る。

月内に庁内組織 年度内に着手へ

リサーチパーク研究推進機構（本庄市）も連携事業実施に協力する。まちづくりについては、市が四月に「安全安心なまちづくり条例」を施行したことに伴い、実際の協定を作成する。市は協定締結を機に、

本年一月に協定締結と併せて協定の内容を、関係機関等に周知し、協定に基づきまちづくりの推進を図る。早大は四月、大学総長が本庄市を訪問し、両市の協定に教育研究活動を始めた。それら契機として市内の小中学校向けの環境教育プログラムを開発したり、市職員が早大の講義を聴講して協定を受け入れる「環境インストラクター」制度を導入したりで着実に協定を推進する。

埼玉県内には市が早大と包括協定を結ぶ例は、協定締結を機に、協定に基づきまちづくりの推進を図る。早大は四月、大学総長が本庄市を訪問し、両市の協定に教育研究活動を始めた。それら契機として市内の小中学校向けの環境教育プログラムを開発したり、市職員が早大の講義を聴講して協定を受け入れる「環境インストラクター」制度を導入したりで着実に協定を推進する。

環境分野で包括協定

サンデンと早大環境総合センター 共同研究など連携を強化

カーエアコン用コンプレッサー製造のサンデンと早大環境総合研究センターは二十日、環境分野の研究・教育に関する包括協定を結んだと発表した。技術開発や人材育成で幅広く連携する。早大の環境センターは埼玉県本庄市に拠点を置いており、隣接する群馬県伊勢崎市の拠点を持つサンデンと協力を強化する。



調印を交わすサンデンの鈴木北吉氏と早大総合研究センターの永田勝也氏

が出席し、包括協定の調印を交わした。協定内容は①技術開発、新規技術に関する共同研究や技術交流、②研究者、技術者の人的交流を通じた研究交流や相互

指導の実践③双方の共同研究などに基づく成果発表や情報交換の三点。すでに空調機や自動販売機に用いる自然冷却の効率化や、小売業向けにグループを適用する仮想店舗が視覚的に体感できるシステム開発に着手。協定締結を機に一層の連携強化に努める。環境総合センターは二〇〇二年七月に発足。環境問題の解消に向けた研

究や技術開発を進めており、企業と包括協定を結ぶのは新日本製鉄に続いて二社目となる。今後、本庄市を中心に幅広く企業と連携を進める「永田所長」方針だ。

リサイクルで産学官連携

本庄で資源循環フォーラム

リサイクルにまつわる「技術の発達」による「環境負荷を減らす」ということ、二十三日、本庄市の早稲田リサーチパークで「資源循環フォーラム」(主催・本庄国際リサーチパーク研究推進機構)が開かれた。

文科省が進める「都市エリア産学官連携促進事業」の一環で、今後三年間にわたられる。早大、埼玉大などの大学、研究機関と県産業技術総合センター、県科学国際センターなどの行政機関、県内のリサイクル、環境企業が加わり、今後連携促進に取り組む。

第一回となったのは、早大環境総合研究所の大和田秀二副所長が「環境調和型リサイクル」をテーマに基調講演。

「技術の発達」による「環境負荷を減らす」ということ、二十三日、本庄市の早稲田リサーチパークで「資源循環フォーラム」(主催・本庄国際リサーチパーク研究推進機構)が開かれた。

「機密性、環境調和性、リサイクル性の三点の調和をとったリサイクルを念頭に置くべき」と述べた。

企業側からはさいたま市の井上功工計副社長が講演。環境に資する企業の在り方に触れ、「リサイクルは、雇用活性化や地域教育など、社会貢与で意見交換を行った。

「技術の発達」による「環境負荷を減らす」ということ、二十三日、本庄市の早稲田リサーチパークで「資源循環フォーラム」(主催・本庄国際リサーチパーク研究推進機構)が開かれた。

「機密性、環境調和性、リサイクル性の三点の調和をとったリサイクルを念頭に置くべき」と述べた。

その後、「会社などのように自然と共生できるか」「経済システムの改善でエネルギーを削減している事業や施設について意見交換を行った。

電子キャンパス 留学生に奨学金

早大大学院と協定 通信も研究

早稲田大学大学院国際情報通信研究センターと千代田大学大学院国際情報通信研究センターは二十三日、本庄キャンパス(埼玉県本庄市)での人材育成・情報通信技術研究で協定を結んだ。主に留学生を対象とした奨学金の支援や情報セキュリティ・無線通信分野での共同研究を軸とする。

電子キャンパスは研究科に対し今後五年間、アジアからの留学生のために奨学金を提供する。金額などの詳細は今後、防衛技術センターと千代田大学のハンディターミナル環境作りを後押しする。

研究センターに対しては情報通信インフラ、マルチメディア表現、社会環境分野の研究推進を支援する。



協定を交わす早稲田大学大学院の溝野朝晴(左)と千代田大学大学院の池田孝(右)。

情報セキュリティ、無線通信分野での共同研究を軸とする。

電子キャンパスは研究科に対し今後五年間、アジアからの留学生のために奨学金を提供する。金額などの詳細は今後、防衛技術センターと千代田大学のハンディターミナル環境作りを後押しする。

研究センターに対しては情報通信インフラ、マルチメディア表現、社会環境分野の研究推進を支援する。

基づくこととする。

さらに、研究センターの一角には共同研究室を開設、十月から正式にスタートする。副所長には千代田大学の望月第一

情報セキュリティ、無線通信分野での共同研究を軸とする。

電子キャンパスは研究科に対し今後五年間、アジアからの留学生のために奨学金を提供する。金額などの詳細は今後、防衛技術センターと千代田大学のハンディターミナル環境作りを後押しする。

研究センターに対しては情報通信インフラ、マルチメディア表現、社会環境分野の研究推進を支援する。

基づくこととする。

さらに、研究センターの一角には共同研究室を開設、十月から正式にスタートする。副所長には千代田大学の望月第一

さいたままで食品リサイクルシンポ 地域ネット立ち上げを

都市における食品の再消費することが大切」な資源化を考える「第一回」と意見を交わしていた。都市系食品バイオマス資源化推進シンポジウム」(主催・県農林総合研究センター、本庄国際リサーチパーク 研究推進機構)がこのほど、さいたま市の市文化センターで開かれた。テーマは「埼玉から築く食品リサイクルネットワークづくり」。登壇者たちは「再生された資源を」地域で消費することが大切」と意見を交わしていた。基調講演は東京農業大学教授・北海道大学名誉教授の畑野利秋さん。但野さんは食品廃棄物の利用について国際比較の例を挙げ、「日本はもっと頑張らなくちゃ」と立ち遅れた現状を指摘。食品資源のエネルギー化について「残存する液をどう処理するかが大きな問題」とし、使い道の研究が必要だとを指摘した。

さらに「堆肥(たいひ)化、肥料化を中核に個別料化するのが現時点では望ましい」として、日本の農地では養分過剰になる傾向があるため化学肥料の大幅削減を必要とするなど課題を投げ掛けた。



「第一回都市系食品バイオマス資源化推進シンポジウム」の会場

パネルディスカッションのテーマは「食品バイオマスの環づくりを自指して」。パネリストは岩岡宏保(さいたまコープ常務理事、純谷定信(アイルクリーンテック 寄居工場長、杉野喜子(サニークリール代表取締役、佐々木滋生(本庄国際リサーチパーク 研究推進機構 科学技術コーディネーター、日高伸(県農林総合研究センター 生産環境担当 室長)の五氏。コーディネーターは埼玉大学経済学部教授の西山賢一さんが務め、百貨店や生産者と連携した食品廃棄物の肥料化と活用などをそれぞれ現状の取り組みを語った。

は二〇〇六年度までにすべての食品関連事業者が食品廃棄物の再生利用などの実施率を20%以上にすることを目標に掲げており、〇七年度以降、国は実地調査を予定している。主催者は情報の共有により成果を促進するため「ネットワークづくり」を呼び掛けた。

(一画参照)

早稲田大キャンパス内にて 地元文化財の展示会行われる

(本庄市)

本庄の早稲田大学キャンパス内「早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター」で、「芸術のすがた」展が開催された(10月8〜23日)。

展示されたのは本庄市や隣郡町で伝統的に行われてきた、交遊を深めていけばいいと懸念されている舞子舞や衣装、太鼓など、貴重な文化財に触れられる機会とあって多くの人が訪れた。

早稲田大学では今後も定期的にこのようなイベントを行っていくという。「地元のみならず」と施設は

を有効的に利用していったとき、交流を深めていければいいと懸念されている舞子舞や衣装、太鼓など、貴重な文化財に触れられる機会とあって多くの人が訪れた。



地元の珍しい文化財が並んだ

本庄早稲田 リサーチパークフォーラム

日本のデジタル映像拠点を目指して

2006年2月8日(水)
早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター
(早稲田大学本庄キャンパス内)

- 早稲田大学大学院国際情報通信研究科 学生作品上映
- 大黒心監督フリートーク
自主映画から商業映画まで
映画制作の現場から見たデジタル革命
- 参加費無料(交通費は参加者1000円)
- 定員 100名程度(定員になり次第締め切り)
- お申し込み
早稲田大学本庄キャンパス内
リサーチパーク・コミュニケーションセンター
〒358-8501 埼玉県本庄市本庄1-1-1
TEL:0495-24-7455

主催 本庄市、早稲田大学、早稲田大学国際情報通信研究科、本庄国際センター、早稲田大学研究振興財団
共催 早稲田大学本庄キャンパス内
お問い合わせ先 本庄市本庄1-1-1 早稲田リサーチパーク TEL:0495-24-7455
TEL:0495-24-7455 <http://www.howarp.org/> E-mail: howarp@howarp.org

平成18年
3月6日
第252号

企画・編集
こだま企画
電話(21)7870

たしかメディア



読売新聞



こだま



発行所 本庄
読売センター本庄
本庄市中央3-2-1
電話(22)2290

まちづくり大学2006開校式

人材育成事業 自分の足で歩き体験を発表

本庄国際リサーチパーク推進協議会主催の「まちづくり大学2006」(増野武夫学長)が、昨年9月17日から

延べも回開校された。これは人材育成事業としてまちづくりリサーチパークを育成するために開かれた。参加された受講生が歴史グループ、

建物と街並グループ、食と農・風土グループの3班に分かれ、講師と共に旧神泉村と旧見玉町、本庄市の街を、自分の足で体験し味わうなかで、学習を深める活動を行った。

2月18日午後1時30分から、早稲田リサーチパーク・コミュニティセンター3階において、第7回として「オープン発表会及び閉校式」が開かれた。

会場には受講生以外の人も参加。発表会では各グループが次々に発表した。ま



3グループに分けて活動。そのオープン発表会が行われた

歴史や建物の遺産が数多くあり、それらを活

用、関連する人達との交流を図っていけない

か。「まちづくりは人づくり」ではないかと発表した。建物と街並グループは、古い空き商店や数多くある蔵や古い橋などを改造、世間遺産にできればと発表。食と農・風土グループは、野菜・花苗・菓子・お茶・豆腐などおいしいものが沢山あり、本庄ブランドとして発信したらどうかなどを発表した。続いて増野学長が「すべての人にいいまちにした」と挨拶、受講生に修了証を授与した。

財団法人 本庄国際リサーチパーク研究推進機構 記事一覧

日付	新聞	タイトル
2005.4.29	日本経済新聞	本庄リサーチパーク機構 リサイクル集積へ組織
2005.5.12	読売新聞	本庄市と早稲田大学 「協働協定」に調印
2005.5.12		本庄市、早大と包括協定 まちづくり・環境教育
2005.5.12	埼玉新聞	合併控え本庄市 早大と連携強化へ
2005.5.24	東京新聞	環境保全テーマに28日本庄で講演会
2005.6.16	埼玉新聞	さきたま抄 「蔵めぐり・街あるき」
2005.6.17	埼玉新聞	本庄の蔵めぐりの集い
2005.6.21	埼玉新聞	本庄 ママと一緒に留学生生活
2005.6.21	日本経済新聞	サンデンと早大環境総合センター 環境分野で包括協定
2005.6.21	上毛新聞	早大・サンデン 相互連携へ包括協定
2005.6.21	日刊工業新聞	サンデンと早大が協定
2005.6.21	東京新聞	サンデンと包括協定
2005.6.22	埼玉新聞	本庄 早大とサンデン協定
2005.6.22	日経産業新聞	早大・サンデン 環境研究・教育で包括協定
2005.6.27	日刊工業新聞	サンデン 鈴木北吉氏、早大 永田勝也氏
2005.6.27	埼玉新聞	本庄 明治初期の写真を展示
2005.6.28	埼玉新聞	4年目の「本庄フィルムコミッション」
2005.7.12	埼玉新聞	本庄の早大 4種類の超小型電気自動車
2005.7.22	日経コンストラクション	真下建設×早稲田大学
2005.8.16	日刊工業新聞	IOC本庄早稲田の入居企業を募集
2005.8.24	埼玉新聞	リサイクルで産学官連携
2005.8.25	朝日新聞	粘土使って手作りアニメ
2005.9.2	日経産業新聞	びあ副会長が講演
2005.9.5	日経産業新聞	起業支援施設 競争時代に
2005.9.15	産経新聞	「地域再生」最前線
2005.9.19	日刊工業新聞	早大院とキャノン電子が協定
2005.9.20	埼玉新聞	早大本庄キャンパスでのイベント
2005.9.23	埼玉新聞	情報通信で共同研究へ（早稲田大とキャノン電子）
2005.9.23	日本経済新聞	留学生に奨学金（キャノン電子）
2005.9.24	埼玉新聞	本庄市でロケ、市民250人が参加
2005.9.29	日本経済新聞	2社に新規投資
2005.9.30	日本経済新聞	映画の街 本庄市 未来の大監督輩出めざす
2005.10.1	日本経済新聞	ウム社「卒業」第一号
2005.10.3	日本経済新聞	本庄早稲田経営セミナー（新会社法）
2005.10.17	朝日新聞	民俗芸能 早大と共同展 本庄市
2005.10.30	埼玉新聞	「やってみるのが大事」早大生が稲刈り体験
2005.11.1	市広報	先進電動マイクロバスの走行実験が行われます
2005.11.11	埼玉北よみうり	早大キャンパス内にて地元文化財の展示会行われる（本庄市）
2005.11.25	埼玉新聞	電動マイクロバス 新システムを試験
2005.11.25	日刊工業新聞	先進電動マイクロバス 早大など埼玉・本庄で実験
2005.11.25	日本経済新聞	電気自動車 本庄で公開走行実験
2005.11.26	埼玉新聞	最新映像技術を語る
	JAPAN MOVIE	「早稲田&本庄」が創る 夢のデジタル・ムービー・タウン
2005.11.28	日刊工業新聞	“オール早稲田” に対応 街づくりに取り組む
2005.12.30	埼玉新聞	沖縄の児童と交流 一緒にパソコンも 神泉小
2006.1.9	埼玉新聞	早大生と児童が魚類調査
2006.1.13	埼玉北よみうり	神泉小が沖縄の小学校と交流会
2006.1.14	日本経済新聞	デジタル映像のフォーラム開催 本庄の早大で
2006.1.16	循環経済新聞	廃蛍光管R工場を竣工
2006.1.17	日本経済新聞	早大本庄キャンパスインキュベーション施設 エム・ソフトが入居
2006.1.23	ひだまり	冬休み 親子スーパーサイエンス教室 科学おもちゃで遊ぼう
	朝日新聞	野菜にシール 生産者に直結
2006.1.25	上毛新聞	日本のデジタル映像拠点を狙って（広告）
2006.1.31	日本経済新聞	企業の商談後押し
2006.2.1	日経産業新聞	災害の停電でも道案内
2006.2.3	日経産業新聞	世界最高速の10ギガビット
2006.3.6	読売瓦版 “こだま”	まちづくり大学2005閉校式
2006.3.14	日本経済新聞	本庄の早大校舎で体験会
2006.3.19	埼玉新聞	さいたままで食品リサイクルシンポ